

進化する個性派化学

昭和電工株式会社

2014年第3四半期 決算説明資料

2014年10月30日決算発表

取締役 執行役員 CFO
武藤 三郎

本資料に掲載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。なお、法令に定めのある場合を除き、当社はこれらの将来予測に基づく記述を更新する義務を負いません。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績に影響を与える要素には、経済情勢、ナフサ等原材料価格、製品の需要動向及び市況、為替レートなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

連結対象会社

■ 連結子会社：47社

増減なし（6月末対比）

+5社（前期末対比）

上海昭和化学品有限公司
 浙江衢州巨化昭和電子化学材料有限公司
 昭和電工アルミ(南通)有限公司
 ハナキャン・ジョイント・ストック・カンパニー
 (株)ビー・インターナショナル

■ 持分法適用会社：12社

△2社（6月末対比）

(株)甲府ガスセンター（化学品セグメント、清算）
 (株)高崎ガスセンター（化学品セグメント、清算）

△3社（前期末対比）

東京アルミ線材(株)
 (株)甲府ガスセンター
 (株)高崎ガスセンター

主要諸元

(期中平均)

	2013年		2014年		増減	
	1-9月	7-9月	1-9月	7-9月	1-9月	7-9月
■ 為替レート(円/US\$)	96.7	99.0	103.0	103.9	6.2 円安	5.0 円安
■ 国産ナフサ (円/KL)	64,450	63,900	70,850	70,700	6,400	6,800
■ アルミ地金						
LME (US\$/T)	1,913	1,828	1,865	2,007	△48	180
国内市況 (千円/T)	240	236	264	288	24	52

(国内市況価格は日本経済新聞掲載値)

※2014年6月期末レート101.4円 2014年9月期末レート109.5円 ⇒ 8.1円円安

連結業績の概要

2013年1-9月 対 2014年1-9月

(億円)

	2013年1-9月	2014年1-9月	増減
売上高	6,175	6,476	300
営業利益	158	182	24
営業外損益	△35	△12	23
金融収支	△21	0	22
為替差損益	8	12	4
持分法投資損益	△6	5	10
その他	△16	△28	△13
経常利益	124	171	47
特別利益	19	11	△8
特別損失	△37	△113	△76
税金等調整前四半期純利益	106	69	△37
法人税等	△28	△45	△18
少数株主損益調整前四半期純利益	78	23	△55
少数株主利益	△11	△2	9
四半期純利益	67	22	△46

特別損益の内訳

(億円)

	2013年1-9月	2014年1-9月	増減
■特別利益	19	11	△8
●投資有価証券売却益	10	7	△3
●契約解除補償金	8	—	△8
●その他	1	4	3
■特別損失	△37	△113	△76
●固定資産除売却損	△9	△17	△7
●減損損失	△6	△28	△22
●関連事業損失	△14	—	14
●投資有価証券評価損	△1	△40	△40
●その他	△7	△28	△21
■特別損益	△17	△102	△84

連結売上高差異内訳(1-9月累計対比)

(億円)

	2013年 1-9月	2014年 1-9月	増減	項目
石油化学	2,076	2,026	△50	オレフィン:減収(エチレン生産設備の大型定修による数量減) 有機:増収(酢ビ:数量増)
化学品	955	1,024	69	基礎化学品:増収(AN:市況上昇、クロロプレンゴム:数量増) 産業ガス、機能性化学品:小幅増収 情報電子化学品:増収(数量増)
エレクトロ ニクス	992	1,026	34	HD:増収 化合物半導体:増収(数量増) レアアース:小幅増収(数量増)
無機	490	509	20	セラミックス:増収(研削材:数量増) 電極:増収(数量増)
アルミニウム	672	709	37	圧延品:増収(コンデンサー用高純度箔:数量増) 機能部材:増収(数量増) アルミ缶:減収(数量減)
その他	1,273	1,500	227	リチウムイオン電池材料:前年同期並み 昭光通商:増収
調整額	△283	△318	△36	
合計	6,175	6,476	300	

連結営業利益差異内訳(1-9月累計対比)

(億円)

	2013年 1-9月	2014年 1-9月	増減	項目
石油化学	20	△6	△26	オレフィン:減益(定修による数量減) 有機:減益(酢エチ)
化学品	13	32	19	基礎化学品:増益(AN、クロロプレングム) 産業ガス:増益 情報電子化学品:増益 機能性化学品:減益
エレクトロ ニクス	142	189	47	HD:増益 化合物半導体:増益(数量増) レアアース:増益(数量増、低価法影響差)
無機	△3	△7	△4	セラミックス:減益(アルミナ原価高) 電極:減益
アルミニウム	48	25	△23	圧延品:減益(原料高) 機能部材:増益(数量増) アルミ缶:減益(地金高)
その他	△8	5	13	リチウムイオン電池材料:増益 昭光通商:増益
調整額	△53	△55	△2	
合計	158	182	24	

連結業績の概要(7-9月対比)

(億円)

	2013年7-9月	2014年7-9月	増減
売上高	2,161	2,340	178
営業利益	91	77	△14
営業外損益	△22	22	43
金融収支	△9	10	18
為替差損益	△6	21	26
持分法投資損益	0	1	1
その他	△7	△9	△2
経常利益	70	98	29
特別利益	5	0	△5
内、投資有価証券売却益	5	0	△5
特別損失	△10	△55	△45
固定資産除売却損	△3	△9	△6
減損損失	△3	△23	△20
その他	△4	△23	△19
税金等調整前四半期純利益	65	44	△21
法人税等	△15	9	24
少数株主損益調整前四半期純利益	50	53	3
少数株主利益	△4	3	7
四半期純利益	46	56	10

連結売上高差異内訳(7-9月対比)

(億円)

	2013年 7-9月	2014年 7-9月	増減	項目
石油化学	722	829	107	オレフィン:増収(価格上昇) 有機:増収(酢ビ:数量増)
化学品	336	351	15	基礎化学品:増収(クロロプレンゴム:数量増) 産業ガス:減収(ドライアイス:数量減) 情報電子化学品:増収(数量増) 機能性化学品:前年同期並み
エレクトロ ニクス	331	331	1	HD:増収 化合物半導体:前年同期並み レアアース:減収(数量減)
無機	179	176	△4	セラミックス:小幅減収 電極:小幅増収(数量増)
アルミニウム	235	251	15	圧延品:増収(コンデンサー用高純度箔:数量増) 機能部材:増収(自動車向け部材:数量増) アルミ缶:減収(国内 減収:数量減、ベトナム 増収:新規連結)
その他	450	506	56	リチウムイオン電池材料:減収(数量減) 昭光通商:増収
調整額	△91	△104	△12	
合計	2,161	2,340	178	

連結営業利益差異内訳(7-9月対比)

(億円)

	2013年 7-9月	2014年 7-9月	増減	項目
石油化学	20	13	△7	オレフィン:減益 有機:小幅増益(酢ビ:数量増)
化学品	7	18	11	基礎化学品:増益(AN:市況上昇) 産業ガス:小幅増益 情報電子化学品:増益(数量増) 機能性化学品:小幅減益
エレクトロ ニクス	58	57	△1	HD:前年同期並み 化合物半導体:前年同期並み レアアース:減益
無機	3	0	△3	セラミックス:減益(アルミナ原価高) 電極:増益(数量増)
アルミニウム	19	7	△12	圧延品、機能部材:前年同期並み アルミ缶:減益(数量減、地金高)
その他	1	1	0	リチウムイオン電池材料:小幅減益 昭光通商:前年同期並み
調整額	△17	△20	△3	
合計	91	77	△14	

連結貸借対照表

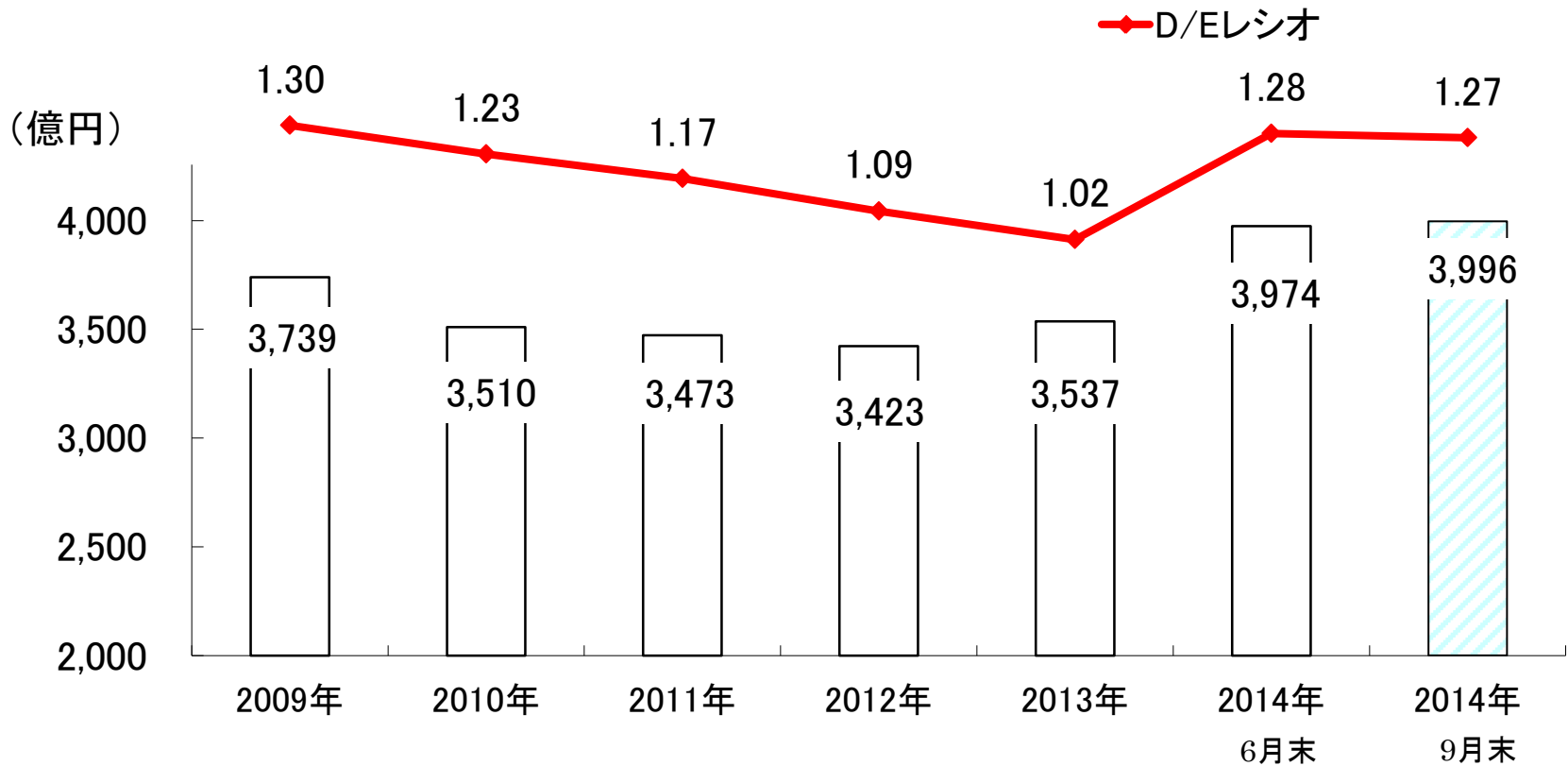
(億円)

資産	2013年 12月末	2014年 9月末	増減	負債・純資産	2013年 12月末	2014年 9月末	増減
現預金	682	561	△121	営業債務	1,242	1,176	△66
営業債権	1,561	1,657	96	有利子負債	3,537	3,996	459
たな卸資産	1,202	1,231	30	退職給付引当金	203	160	△43
その他	301	344	43	その他	1,418	1,483	65
<u>流動資産計</u>	<u>3,746</u>	<u>3,793</u>	<u>47</u>	<u>負債計</u>	<u>6,400</u>	<u>6,814</u>	<u>415</u>
建物・構築物	855	841	△14	資本金	1,406	1,406	—
機械装置・運搬具	1,116	1,192	75	資本剰余金	622	622	0
土地	2,546	2,541	△5	利益剰余金	584	561	△23
他有形固定資産	424	487	63	自己株式	△1	△102	△100
<u>有形固定資産計</u>	<u>4,941</u>	<u>5,060</u>	<u>119</u>	<u>株主資本計</u>	<u>2,610</u>	<u>2,488</u>	<u>△123</u>
無形固定資産	110	142	33	その他有価証券評価差額金	58	60	2
投資その他の資産	1,061	964	△97	為替換算調整勘定等	64	114	50
(内、投資有価証券)	787	725	△61	土地再評価差額金	279	279	0
				その他の包括利益累計額合計	402	453	52
				少数株主持分	446	205	△241
<u>固定資産計</u>	<u>6,112</u>	<u>6,167</u>	<u>55</u>	<u>純資産計</u>	<u>3,458</u>	<u>3,146</u>	<u>△312</u>
資産合計	9,858	9,960	102	負債・純資産合計	9,858	9,960	102

総資産・有利子負債・D/Eレシオ・自己資本比率

	2013年12月末	2014年9月末	増減
■ 総資産	9,858億円	9,960億円	102億円
■ 有利子負債	3,537 億円	3,996億円	459億円
■ D/Eレシオ	1.02 倍	1.27 倍	0.25 p増
■ 自己資本比率	30.6 %	29.5 %	1.0 p減

連結有利子負債等の推移



自己資本比率	25.5%	26.1%	26.8%	29.2%	30.6%	30.0%	29.5%

(ご参考) 連結業績の概要 (2Q、3Q対比)

(億円)

	2014年4-6月	2014年7-9月	増減
売上高	2,040	2,340	300
営業利益	30	77	47
営業外損益	△23	22	45
金融収支	△4	10	13
為替差損益	△8	21	29
持分法投資損益	△2	1	3
その他	△10	△9	1
経常利益	6	98	92
特別利益	4	0	△3
特別損失	△47	△55	△8
税金等調整前四半期純利益	△37	44	81
法人税等	△5	9	14
少数株主損益調整前四半期純利益	△43	53	95
少数株主利益	△1	3	4
四半期純利益	△44	56	100

(ご参考) 連結売上高差異内訳(2Q、3Q対比)

(億円)

	2014年 4-6月	2014年 7-9月	増減	項目
石油化学	577	829	252	オレフィン:増収(数量増:2Q定修実施) 有機:増収(酢ビ数量増)
化学品	339	351	12	基礎化学品:減収(AN、クロロプレングム:数量減、8月定修実施) 産業ガス:増収(ドライアイス:数量増、季節性) 情報電子化学品:増収(数量増) 機能性化学品:減収(数量減)
エレクトロ ニクス	323	331	8	HD:増収(数量増) 化合物半導体:減収(数量減) レアアース:減収(数量減)
無機	174	176	2	セラミックス:前四半期並み 電極:増収(数量増)
アルミニウム	246	251	5	圧延品:小幅減収 機能部材:増収(自動車向け部材:数量増) アルミ缶:増収(国内:前四半期並み、ベトナム:増収、新規連結)
その他	495	506	11	リチウムイオン電池材料:減収 昭光通商:増収
調整額	△114	△104	10	
合計	2,040	2,340	300	

(ご参考) 連結営業利益差異内訳(2Q、3Q対比)

(億円)

	2014年 4-6月	2014年 7-9月	増減	項目
石油化学	△19	13	32	オレフィン:増益(数量増、2Q定修) 有機:増益(数量増)
化学品	4	18	14	基礎化学品:増益 産業ガス:増益(季節性) 情報電子化学品:増益(数量増) 機能性化学品:減益(数量減) 卸電力:増益(2Q定修)
エレクトロ ニクス	51	57	6	HD:増益(数量増) 化合物半導体:小幅減益 レアアース:前四半期並み
無機	△3	0	4	セラミックス:減益(原価高) 電極:増益(数量増)
アルミニウム	9	7	△2	圧延品、機能部材:前四半期並み アルミ缶:小幅増益
その他	1	1	0	リチウムイオン電池材料:減益 昭光通商:小幅増益
調整額	△14	△20	△6	
合計	30	77	47	

(ご参考)2014年業績推移

(億円)

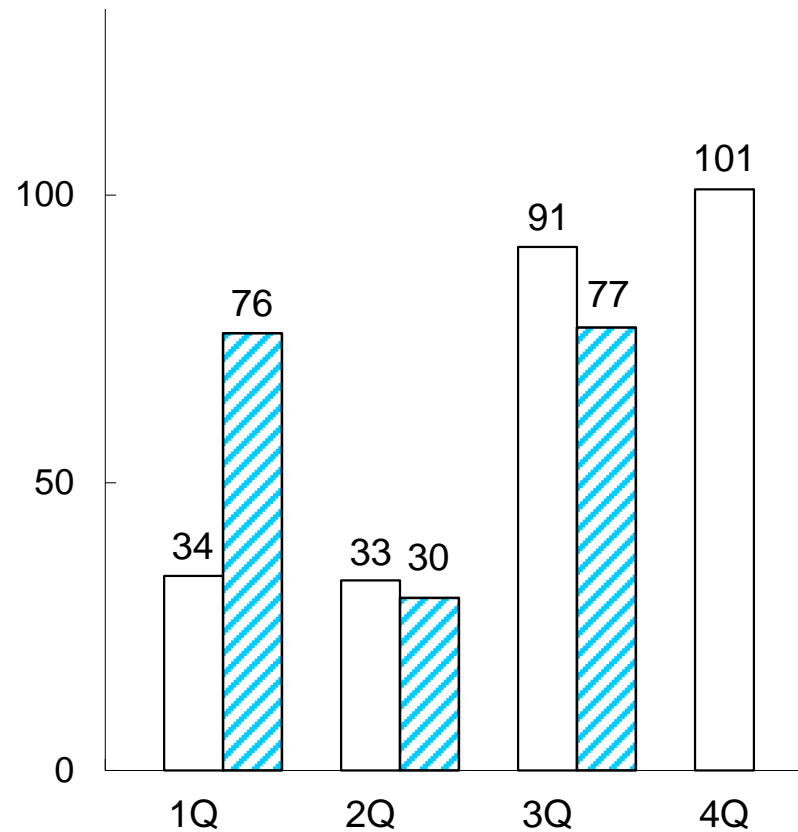
	2014年 1-3月	2014年 4-6月	2014年 7-9月	2014年 1-9月	2014年 通期予想 (7月31日公表)
売上高	2,096	2,040	2,340	6,476	8,950
営業利益	76	30	77	182	320
経常利益	66	6	98	171	260
当期純利益	9	△44	56	22	70

(ご参考) 四半期別連結営業利益推移

■ 全 社

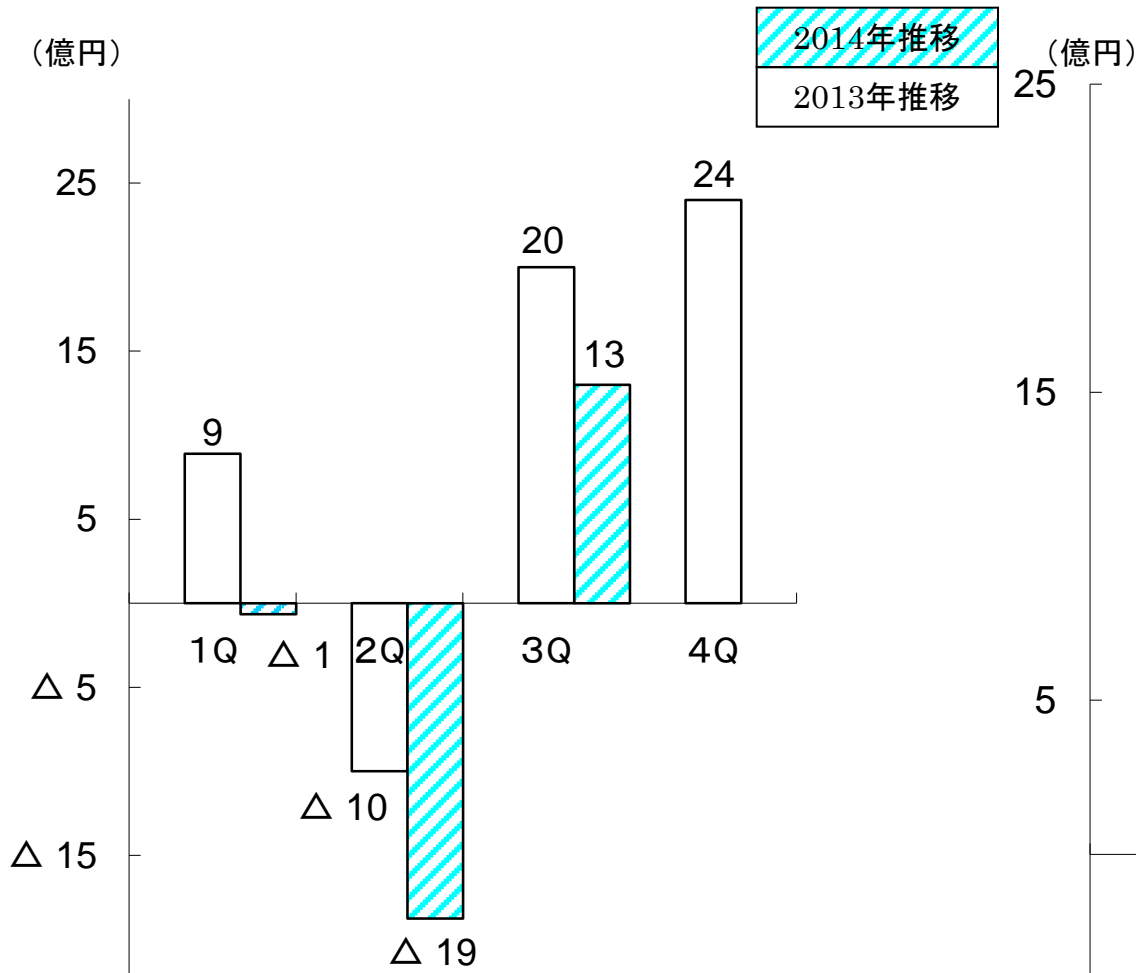
2014年推移
2013年推移

(億円)

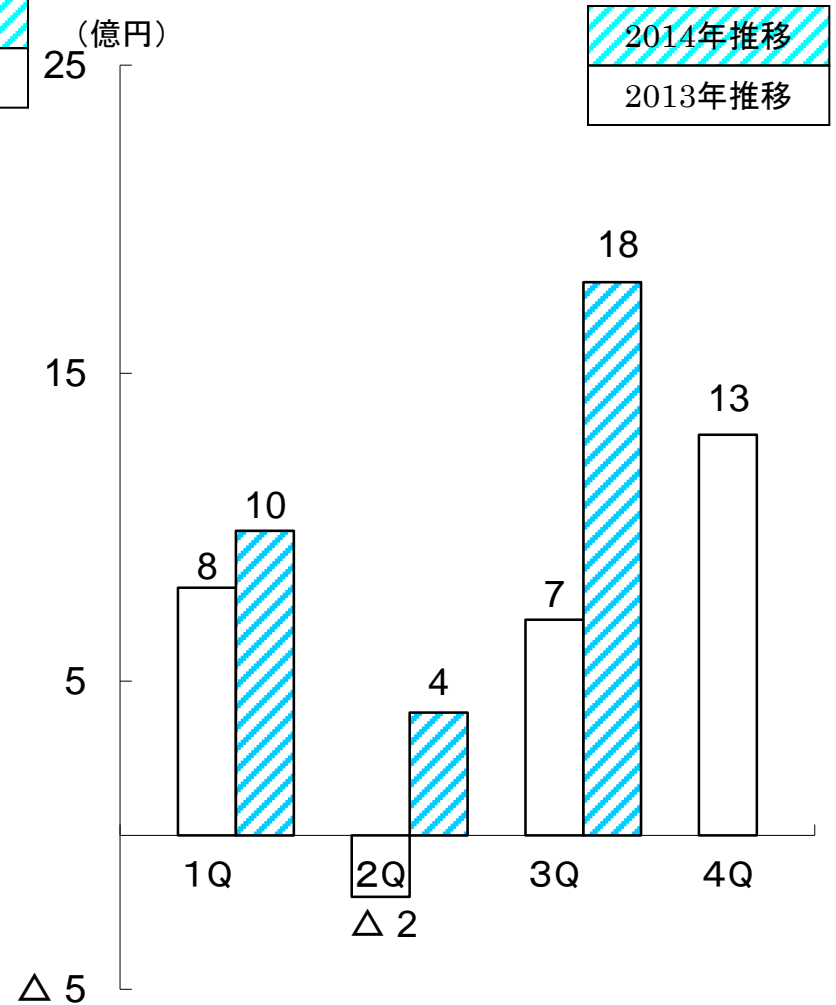


(ご参考)セグメント別営業利益推移

■石油化学セグメント



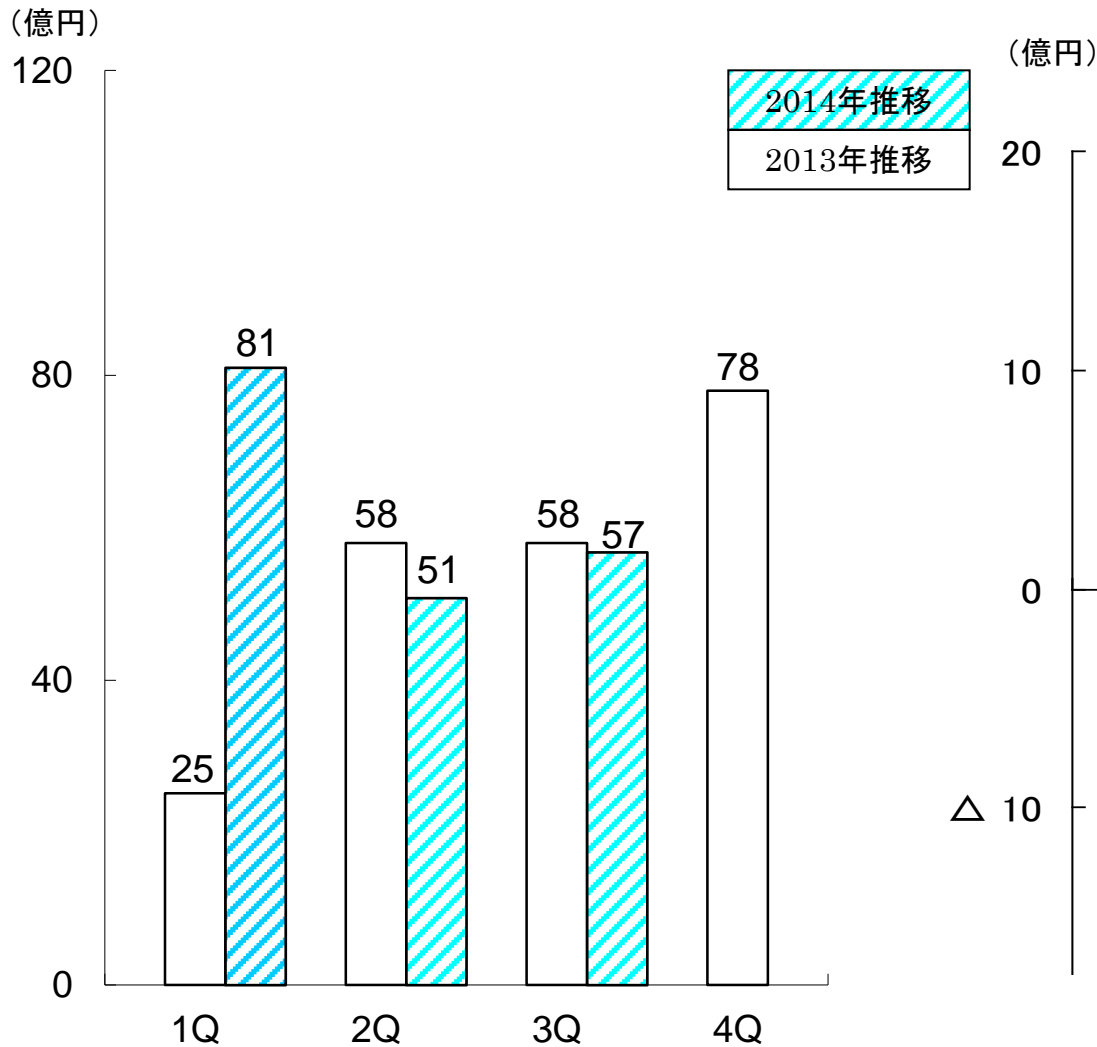
■化学品セグメント



(ご参考)セグメント別営業利益推移

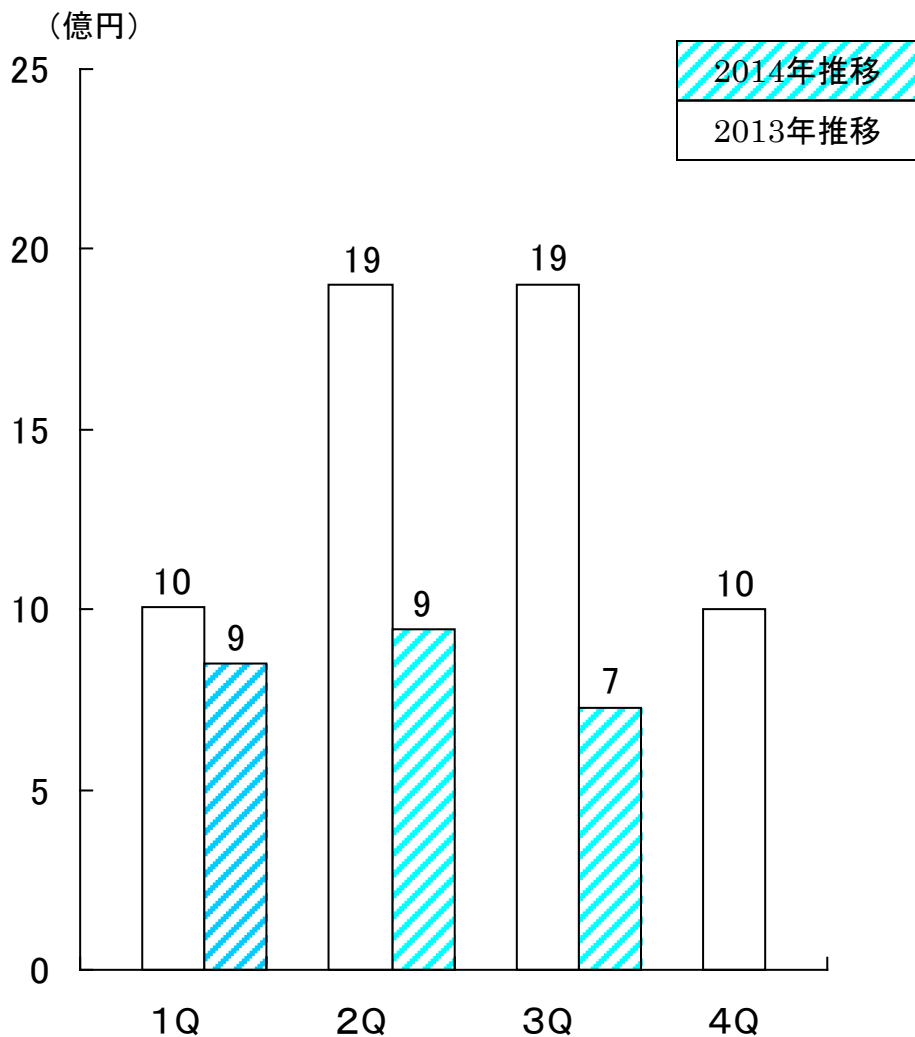
■エレクトロニクスセグメント

■無機セグメント

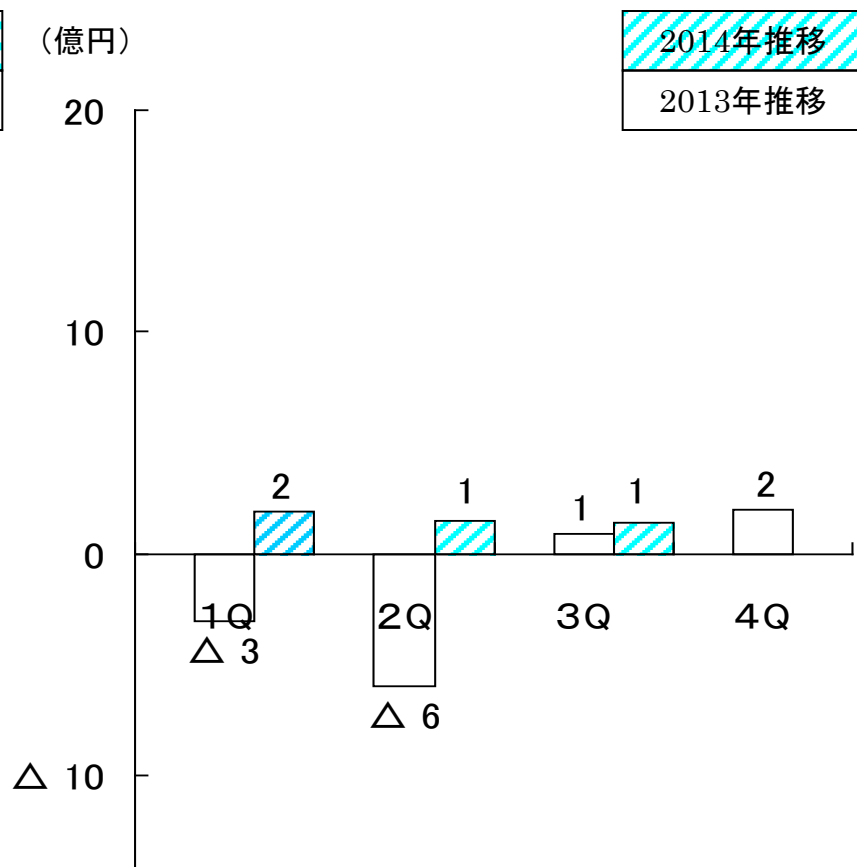


(ご参考)セグメント別営業利益推移

■アルミニウムセグメント



■その他セグメント



セグメント別トピックス

(第2四半期決算後に決定・実施した主な施策)

【全社施策】

● パワー半導体用SiCエピウェハー6インチ品の生産能力増強

本年9月、パワー半導体用炭化ケイ素(SiC)エピタキシャルウェハー(以下、エピウェハー)の6インチ品の月産能力を400枚から1,100枚に増強した。また、自動車用など大電流容量が求められるモジュール向けに、品質を向上させた新グレード製品を本年10月より出荷している。

SiCエピウェハーが用いられるパワー半導体は、現在主流のシリコン(Si)製に比べ耐高温・高電圧特性や大電流特性に優れ、電力損失も大幅に削減できることから、車載、サーバー電源、電鉄、および新エネルギーの分散型電源向けなどに需要増加が期待され、市場規模は2020年に300億円に拡大すると予想されている。市場の要求品質に応え、市場形成に貢献していく。

● 自己株式の取得

株主還元および経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を図るため、本年7月31日開催の取締役会において自己株式取得を決議した。本年8月1日から市場買付を開始し、同9月22日までに総数68,261,000株(約100億円)の自己株式の取得が終了した。

セグメント別トピックス

(第2四半期決算後に決定・実施した主な施策)

【石油化学セグメント】

● PT.ショウワ・エステリンド・インドネシアの解散

当社の子会社であるPT.ショウワ・エステリンド・インドネシア(以下、SEI)における酢酸エチル生産を本年中に終了し、その後生産設備の解体・撤去を経て解散することを決定した。

SEIは、当社が独自に開発したエチレン直接付加法により酢酸エチルを生産する初のプラントとして1999年の操業以来、需要堅調な東南アジアに安定供給してきたが、近年は原料価格の上昇や近隣国における供給能力の増大等により事業環境が厳しさを増しており、今後の事業継続は困難と判断した。

【化学品セグメント】

● APCI台湾高純度塩素事業を買収

特殊材料ガス事業の強化を図るため、本年7月、米国・エアプロダクツアンドケミカルズ社(APCI)の子会社三福氣體股份有限公司が台湾・高雄市に保有する製造設備を含む高純度塩素事業の買収を決定した。

高純度塩素は、半導体・液晶製造プロセスでのエッチング用ガスとして需要が拡大しており、2015年の市場規模は2,000トン程度になることが予想されている。

当社グループは、現在川崎事業所における年産1,000トンの設備に加え、台湾の製造設備を持つことで、今後さらなる市場の拡大が予想される東アジア地域において、安定した供給体制を構築していく。

セグメント別トピックス

(第2四半期決算後に決定・実施した主な施策)

【エレクトロニクスセグメント】

● 世界最大記憶容量の3.5インチハードディスク量産開始

当社が生産・販売するハードディスクが、世界最大容量となる8テラバイトのハードディスクドライブに採用された。今回採用されたハードディスクは、3.5インチで1枚当たり1.1～1.3テラバイトの容量を持つ、垂直磁気記録方式で第7世代の製品。2005年より世界に先駆けて垂直磁気記録方式のハードディスクの生産を開始している。

ハードディスクドライブは今後クラウド化の進展によるデータ生成量の増加に伴い、特にデータセンター向けの出荷の増加が見込まれる。また、ハードディスクドライブの記憶容量を左右する主要構成部品であるハードディスクは、年率3%前後の成長が期待されている。

今後も世界最大のメディア専門メーカーとして、大記憶容量のハードディスクの安定供給に努め、質・量の両面においてお客様の期待に応えていく。

【無機セグメント】

● 高機能光触媒『ルミレッシュ®』が太陽工業の膜材に採用

当社の子会社、昭和電工セラミックス(株)が開発した高機能光触媒「ルミレッシュ®」が、テント構造物のトップメーカーである太陽工業(株)の屋内用膜材「ヒカリプロテクスタイル」に採用され、2015年1月から販売される予定。

ルミレッシュ®は、太陽光に多く含まれる紫外光で効果を発揮する従来の光触媒に比べ、屋内の蛍光灯など、弱いエネルギー光でも菌やウイルスを不活化させることが確認されている。ルミレッシュ®の高い抗ウイルス性能は、インフルエンザウイルスやノロウイルスなどの感染リスクを低減する技術として期待が持たれている。

当社グループは光触媒のさらなる性能向上に努め、人々の健康で、安心・安全な生活に貢献していく。

セグメント別トピックス

(第2四半期決算後に決定・実施した主な施策)

【アルミニウムセグメント】

● 高純度アルミ箔の中国拠点の能力増強を決定

本年7月、アルミ電解コンデンサーの主要材料である高純度アルミ箔の中国での生産能力増強を決定した。アルミ電解コンデンサーは、家電製品からIT機器、電気自動車やハイブリッド車、新エネルギー分野まで幅広く使用されており、特に中国で需要伸長が見込まれている。

昭和電工アルミ(南通)有限公司の月産能力を現行の400トンから2015年1月には600トンに増強することにより、高品質の高純度アルミ箔を安定的に供給し、アルミ電解コンデンサー市場の拡大にタイムリーに対応していく。

【その他セグメント】

● リチウムイオン電池向けラミネート包材設備増強を完了

当社の子会社、昭和電工パッケージング(株)は、リチウムイオン電池(以下、LIB)の包材であるアルミラミネートフィルム(以下、ラミフィルム)の彦根工場での設備増強を完了し、7月より量産を開始した。今回の増強により、昭和電工パッケージングでのラミフィルム生産能力は2010年比で3倍となった。

LIB包材向けラミフィルムの市場は拡大を続けていて、スマートフォンやタブレット向けなど小型LIBの需要増に加え、自動車の電装化に伴う大型LIBの需要の増加が見込まれる。

成長著しいLIB市場に対し、高品質のLIB用材料を安定的に供給することに努めていく。